

オレンジ色に染まった空に浮かぶ黒い雲が孤独な町を危険な雰囲気に包む。ここはキダルだ。レベル4という最高の危険地域と指定されるマリの最北の町だ。周りは25万平方キロの砂漠が広がり、アメリカ、フランスの軍などが反テロのパトロールを行なっている。そして先住民のトゥアレグ族が1963年以降、独立の反乱を繰り返している。目的はマリ北部の土地、「アザワド」の独立だ。アザワドは、80年代キダルで生まれたトゥアレグ族の「砂漠のブルース」のインスピレーションだ。2012年グラミー賞ベストワールドミュージックアルバム賞を受賞したティナリウエンを始め、新世代のタミクレストが武装の代わりに音で革命を起こした。フランスの植民地化によって決められた不条理な国境の中で自由を失った遊牧民の苦しみ、マリ軍による虐殺、そして反乱の歌はマリ、アルジェリア、ニジェール、リビアのサハラに猛暑の風のように吹き広がり、トゥアレグ族に希望を与え続けた。85年に生まれたタミクレストのリーダー、ウスマン・アグ・モサ (Ousmane Ag Mossa) は父親がマリの北南を結ぶ塩キャラバンの商人だったが、80年代の大干ばつで定住し、ウスマンは遊牧生活を味わうこともなく、失業と戦争の世代だ。アルジェリア南部のタマンラセットで亡命生活を送ったメンバーたちは Dirtmusic のミュージシャンはプロデューサーのクリス・エックマンと出会い、2006年にデビュー作『Adagh』をリリースした。2013年に4つ目のアルバム、『Chatma』をリリースし、音楽専門誌の Songlines のベストグループ賞を受けた。それから3年、長い沈黙の後で発表した作品『キダル』。トゥアレグの音楽の中でも宇宙で生まれたような作品だ。砂漠のブルースよりさらに遠く、「砂丘の裏側」に連れて行く旅だ。

砂丘の裏側の音

タミクレスト『キダル』

文●デコート豊崎アリサ
text by Alissa Descotes-Toyosaki

——『キダル』の録音まで3年かかりましたが、その間どうしていたのですか。
ウスマン・アグ・モサ (以下、OAM) 僕は2014年からワールドツアーをやめた。個人的な問題も沢山あって、ゆっくりする時間が必要だった。僕が生まれた町に帰って、家族と会ったり、作曲した。小屋のような小さな部屋に閉じこもって、朝の5時までギターを弾いて、朝方お兄さんの家に戻り、18時まで爆睡し、また小屋へ。この仕事のリズムは何ヶ月も続いたね。まるで、サラリーマンの営業生活のようだった(笑)



TAMIKREST 『KIDAL』 (2017)
ライスレコード INR-7115

—— 故郷はどこなところですか。

O A M ティンザワテンという町は国境にある。フランスの植民地化で引かれた国境によって二つに切断された。乾いた川の北岸はアルジェリア、南岸はマリ。地域間を反テロパトロールしているのは6000人くらいのアルジェリアの軍人。要する住民と同じ人数だ。まるで、刑務所にいるようだ。そこは僕の故郷で、家族もいる。いやなことから目をそらして、空を見上げるしかない。砂漠の星空は綺麗だよ。

—— キダルではマリ戦争が起きた2012年以来、どんな状況ですか。

O A M キダルの町を歩くと、ヘルメットをかぶったアメリカ、チャド、フランスなどの軍人がパトロールし、空を見上げると戦闘機が飛んでる。まるでイラク戦争の映画を見ているようだ。AQIM（アルカイダ・マグレブ）などのテロ組織はその辺の山でうろろろし、バルカンの反テロ軍人は町でうろろろし、皆何しているのか僕たちにはよく分からない。テロにとってはトウアレグ族がスパイ、国連の軍にとっては、我々が潜在的なテロのように扱われている。そしてマリ政府はトウアレグ族の絶滅を願うばかりだ（苦笑）

—— 今日はたまたま4月6日ですが、ウスマンにとってはどんな日ですか。

O A M 今日は私の誕生日より大事な日だ。2012年4月6日、この日アザワド共和国が生まれたのだ。結局国際社会は認めず、マリ政府が自分を守らない平和協定を結んだ。それから6年経つても、このありさまだ。平和どころが、ハマコ、トンブクトウ、ガオ、キダルではテロの攻撃が相次いでいる。どんな失敗や困難があっても、前に進むしかない。前よりも女性、子



Photos by Sebastien Rieussec

供、老人も皆独立への意思が高まって、僕らは「アザワド国民」であることを誇り高く思う。

—— キダルはどこへ導く旅ですか。

O A M それは旅が終わらないと分からないですが、霧の中で歩むような旅で沢山の障害がある中で、遠回りして、ゆっくりと困難を乗り越えてゆく旅だ。

—— 最近、お好みの曲は何ですか。

O A M エリック・クラプトンの「Double trouble」、1979年の武道館のライブ。

—— 4月からタミクレストのワールドツアーが始まったのですが、日本にも来る予定ですか。

O A M はい、行きたいです。僕は「ベンク・フロイドのアルバム『The dark side of the moon』が好きだ。日本人にはサハラはきつと月の裏側のような未知の世界だね。僕はいつか『砂丘の裏側』という作品を出したいと思う。

【ライブ・インフォメーション】

5月25日(木)

橋の下映画祭『Caravan to the Future』+ トーク&ミニライブ

5月26日(金)~28日(日) (出演日後日発表)

橋の下世界音楽祭 "SOUL BEAT ZERO 2017"

5月30日(火)

代官山 unice

5月31日(水)

横浜 Thumbs Up